



受付第04A0806号
受付日：平成16年 6月17日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 カ ナ イ
常務取締役 並 木 高 様
埼玉県八潮市西袋717-1

試験名称 枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成16年 7月30日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝 野 幸 一
埼玉県草加市稲荷5丁目



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験						
依頼者	株式会社 カ ナ イ						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 商品名：プレイブホールダウン B-HD25 用途：柱脚に使用する接合金物（アンカー型） 形状・寸法：幅45mm，長さ240mm，厚さ6mmの鋼板添え板にU形に折り曲げた厚さ6mmの鋼板を溶接したもの（図-3参照） 材質：SPHC (JIS G 3131) 表面処理：ダクロタイズド処理</p> <p>2. 接合具 木ねじ：六角スクリュー φ6.0×90，8本使用 呼び長さ；90mm，ねじ部の長さ；60mm，ねじ部の外径；6.25mm， 谷の径；4.45mm，ねじ山のピッチ；2.82mm，ねじ先の形状；切り刃先 材質；SWRCH22A (JIS G 3507) 相当品であり，下記の化学成分を満足する。 C (0.18~0.23%)，Si (0.10%以下)，Mn (0.70~1.00%) P (0.030%以下)，S (0.035%以下)，Al (0.02%以上) 表面処理；ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16六角ボルト，材質；SS400 (JIS G 3101) 表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610及びJIS H 8625)</p> <p>3. 使用枠組材 たて枠：JAS規格の枠組壁工法構造用製材，樹種；S-P-F，区分；甲種，等級；2級，寸法形式；204</p> <p>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-3（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修／国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表-1に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力	終局変位	試験剛性
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	(K) kN/cm
	BHD25-24	0	36.6	4.8	54.0	30.0	76.2
		1	34.7	5.2	52.3	26.3	66.7
		2	38.5	6.1	55.1	26.5	63.1
		3	37.9	5.7	57.9	28.9	66.5
		4	37.2	6.4	59.0	30.0	58.1
		5	32.3	5.5	47.6	30.0	58.7
		6	38.5	5.9	57.5	28.0	65.3
		平均	36.5	5.8	54.9	28.3	63.1
標準偏差 s		2.50	0.43	4.30	1.64	3.84	
5%下限値		30.7	-	44.9	-	-	
基準値		基準許容応力 20.5		基準終局耐力 44.9		基準剛性 63.1	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参照：表-2 (2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況)，図-4 (荷重-変位包絡線の比較) 図-5 (荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル)，写真-1～写真-6 (破壊状況)							
試験期間	平成16年 7月12日 ~ 13日						
担当者	構造グループ 試験監督者 橋本敏男 試験責任者 高橋大祐 試験実施者 守屋嘉晃，渡辺 一						
試験場所	中央試験所						